千年王国

THE MILLENNIAL KINGDOM

- アミール・ツァルファティ 2019年4月17日(水) -

https://youtu.be/ty-lZldf1Vc

お祈りして始めましょうか。

天のお父さま。心から感謝します。あなたは、誰も滅ぶことを望まれません。また、誰にも滅んでほしくないだけではなく、私たちが、あなたの御言葉から情報を得て、みことばに根ざすことを望んでおられます。私たちが簡単に欺かれないために。私たちが欺かれる原因のひとつは、私たちが真理に留まっていないためです。欺きと真理とは真逆にあります。お父さま。どうか私たちを真理で聖め別ってください。あなたの御言葉は真理です。そのことを、あなたに感謝します。イエスの御名によって。アーメン。アーメン！

さて、今日のメッセージの主題は、「千年王国とは何か？」(What is the Millennial Kingdom?)
そこで、良い知らせと悪い知らせがあります。
良い知らせとは、「千年王国は、すばらしいものである」。
悪い知らせは、「私たちは、まだ千年王国には入っていない」。
ある人達は「今が千年王国だ」と、何がなんでも言いたいようですが、もしこれが千年王国なら、私は、超がっかりです。
今日は、まず第一に、「千年王国とは何か」これは、非常に意見が対立する事です。それから、他のことについて見ていきます。

「千年王国とは？」黙示録20章1節から6節を見てみましょう。ここは、新約聖書でそのことについて語っている箇所です。1節から6節。これは、千年王国について語っている新約聖書の箇所です。ヨハネが書いています。

『また私は、御使いが底知れぬ所のかぎと、大きな鎖とを手に持って、天から下って来るのを見た。彼は、悪魔でありサタンである竜、あの古い蛇を捕え、これを千年の間縛って、…』（黙示録20章1節から2節）

そこで、“千”年というこの言葉ですが、“Millennium / ミレニウム”とは、千、“Mille”は、ラテン語で“千”、“Millennium”という言葉は、すでにサタンが底知れぬ所で過ごす期間として言及されています。そして、こう告げています。

『底知れぬ所に投げ込んで、そこを閉じ、その上に封印して、千年の終わるまでは、それが諸国の民を惑わすことのないようにした。』（黙示録20章3節）

わぉ！つまり、大患難の終わりに、ある期間が与えられます。サタンが吠えたけり、サタンが彼の知る限りのことを好き放題して諸国を惑わしますが、神が、彼を底知れぬ所に投げ込み、彼を閉じ込められるのです。「黙れ！サタン！」と。そして、神がそこを封印され…。聖書は、こう告げています。

『（サタン）が諸国の民を惑わすことのないようにした。』（黙示録20章3節）

「…Until / ～まで」と言ってください。『千年の終わるまで』これがカギです。みなさん、覚えていてください。聖書を一部だけ取り上げて、他を無視することはできません。「～まで」という言葉があります。つ

まりこれは、世がサタンの存在から解放される期間がある。しかし、その期間は限られているという意味です。期間の長さは？　千年間。

次にこれを見てください。

『サタンは、そのあとでしばらくの間、…』（黙示録20章3節）

「Must / なければならない」と言ってください。『解き放されなければならない。』（3節）ここでの「Must / なければならない」という言葉は、このメッセージ全体を握るカギです。みなさん、それを理解しておいてください。みなさんの聖書の、そこの部分を丸で囲んでください。

『サタンは、そのあとでしばらくの間、解き放されなければならない。』（黙示録20章3節）

「しばらくの間」と言ってください。お分かりですか？神は世を試されます。サタンの存在がない、まる千年の後、神は、彼を解き放されます。彼は、しばらくの間、解き放されなければなりません。

次に、これを見てください。

『また私は、多くの座を見た。彼らはその上にすわった。そしてさばきを行う権威が彼らに与えられた。また私は、イエスのあかしと神のことばとのゆえに首をはねられた人たちのたましいと、獣やその像を拝まず、その額や手に獣の刻印を押されなかった人たちを見た。彼らは生き返って、キリストとともに、”千年の間”王となった。』（黙示録20章4節）

再び、「千」という言葉が出て来ました。ラテン語で「ミレニウム」、「Mille」「千」です。ということで、千年というのは、サタンが底知れぬ所で過ごす期間です。そして、それと並行して、聖徒たちがキリストと共に統治する期間です。どこで？　ここ、この地上で。

次を見てください。

『そのほかの死者は、千年の終わるまでは、生き返らなかった。』（黙示録20章5節）

わぉ！ですから、これを見てください。神は、ある期間を設けられ、その間、世は、サタンの存在から解放されます。それに関しては、それがどのようなものなのか、あとでお話ししますが、驚きですよ。
今のこれ？冗談でしょ？　今のこれが千年王国？
千年王国が、どのようなものなのか、後ほどお話ししますよ。今は、絶対に違うということを、みなさんは理解されるでしょう。ただ、みなさんに理解しておいてほしいのは、千年間、サタンの存在が一切なく、最後の最後に、サタンは、しばらくの間、解き放されなければなりません。そして、最後の最後、これらすべての後で、唯一そのときに、歴史を通して、これまで生き、そして、すでに死んだ人々が生き返ります。聖書は、こう告げています。

『そのほかの死者は、千年の終わるまでは、生き返らなかった。これが第一の復活である。』
（黙示録20章5節）

はい。最初のよみがえりとは、何でしたか？さっき私は、みなさんにお見せすると約束しました。ちょっとお手伝いください。スライドの22番に行っていただけますか？そして、違いをみなさんにお見せしてください。これ、ご覧ください。よみがえりには順番があります。「初めのよみがえり」があって、それから、「第二のよみがえり」があります。「初めのよみがえり」は、イエスが全てです。イエスと、イエスに属する者

が全て。3日目にイエスがよみがえられて、彼が一番初めの人でした。聖書は『キリストは、眠った者の初穂』であると告げています。（第1コリント15章20節）

それから、大患難の前に、教会がよみがえります。

『キリストにある死者が、まず初めによみがえり、次に、生き残っている私たちが、たちまち彼らといっしょに』（第1テサロニケ4章16節から17節）

覚えていますか？それから、大患難の最中に殺される2人の証人が、よみがえります。そしてヤコブの苦難の時の後、イスラエルが戻った後、旧約聖書の聖徒たちが、同様に生き返ります。彼らも千年王国に入りますから。これは、すごいことですよ！

みなさん、今、ダビデ王を見ていますか？彼はまだ、ここにはいません。モーセもエリヤも、ここにいません。千年王国の時、彼らはそこにいます。これを理解しなければなりません。そして千年王国の初めに、大患難の殉教者たち、全員を見かけます。大患難を経験し、大患難の最中に信者になった人たち、数はそれほど多くはありませんが、彼らもまた、『獣やその像を拝まず、その額や手に獣の刻印を押されなかった人たちも、生き返って、キリストとともに、千年の間王となった。』（黙示録20章4節）と聖書は告げています。つい先ほど、読みましたね。

ですから、ここの共通点は、彼らはみな、敬虔な人たちです。と言っても、彼らの力ではなく、神の力です。彼らが人生を神に捧げたからです。彼らは信者になったのです。そして、こういったことについて語るとき、この全てが「第一のよみがえり」で知られています。ですから、「第一のよみがえり」とはまず、イエスが、よみがえられた瞬間から、大患難の殉教者たちが、よみがえった瞬間まで、これが「第一のよみがえり」です。それから千年のギャップ（へだたり）があって、その最後に、信じないで死んだ人たちの「第二のよみがえり」があります。これが、つい先ほど読んだ箇所です。聖書が告げていることを見てください。

これが第一の復活である。この第一の復活にあずかる者は幸いな者、聖なる者である。この人々に対しては、第二の死は、なんの力も持っていない。（黙示録20章5b節から6a節）

「第二の死」とは、何ですか？ほら、私たちの中の何人かは死にます。大患難の殉教者たちも死にます。もちろん。旧約聖書の殉教者たちは死にました。2人の証人たちも死にます。これが死。しかしそれは、私たちに対しては何の力もないことを、私たちは知っています。これが「第一の死」です。「個人の第一の死」

そして、「第二の死」とは、神が全世界をさばかれた後に、ダニエルが告げたように、ある者は永遠の命に入り、ある者は永遠の裁きに行きます。それで終わり。それが最終決定です。すべての人が救われるのではありません。ある人は救われ、ある人は救われません。ただ、神はすでにすべてをご存じです。私たちには分かりません。神はすべてをご存じで、神は将来のことをご存じなのです。しかし、私たちは知りません。そのために、神は行われるのです。私たちは神に感謝します。私たちは、「第二の死」に関わることがありませんから。「第一の死」のみです。

人間には、一度死ぬことと死後にさばきを受けることが定まっている。（ヘブル9章27節）

問題は、「あなたは死ぬまでの間、あなたの人生で何をしてきたか」。あなたは「第二の死」を受けるに値する者なのか？それとも、「第二の死」は、あなたに対して何の力も持たないのか？

では、聖句に戻って、スライド4を見てみましょう。

この人々に対しては、第二の死は、なんの力も持っていない。彼らは神とキリストとの祭司となり、キリストとともに、千年の間、王となる。（黙示録20章6節）

ふたたび、ここで「千年」が登場しました。彼が告げているのは、私たちがイエスと共に統治する時間です。物理的にイエスが地上におられ、私たちも物理的に地上にいて、そして私たちは、物理的に地上で、主と共に統治します。これを知っておくのは非常に重要です。

では、「旧約聖書に千年王国は出てくるのか？」たったいま、私は典型的な新約聖書のことをお読みしましたが、それは旧約聖書にもあるのか？
さて、みなさんにお伝えします。みなさんは驚かれるかもしれませんが、旧約聖書の方が、新約聖書よりも多くの箇所で、千年王国について語っています。事実、旧約聖書には、イエスの初臨の預言より、千年王国の預言の方が多く書かれているのです。みなさん、理解してください。ゼカリヤ書14章16節から20節。みなさんがハルマゲドンと呼ぶ、あの恐ろしい戦争の後、

“エルサレム”に攻めて来たすべての民のうち、生き残った者はみな、毎年、万軍の主である王を礼拝し、仮庵の祭りを祝うために上って来る。

どこに？

地上の諸氏族のうち、万軍の主である王を礼拝しに、“エルサレム”へ…
（ゼカリヤ書14章16節から17節）

ここは、“イスラエルの王ダビデ”ではありません。これは「万軍の主」。神にだけ使われる言葉です。そして、

“エルサレム”へ上って来ない氏族の上には、雨が降らない。もし、エジプトの氏族が上って来ないなら、雨は彼らの上に降らず、「仮庵の祭り」を祝いに上って来ない諸国の民を主が打つその災害が彼らに下る。これが、エジプトへの刑罰となり、仮庵の祭りを祝いに上って来ないすべての国々への刑罰となる。その日、馬の鈴の上には、「主への聖なるもの」と刻まれ、主の宮の中のなべは、祭壇の前の鉢のようになる。
（ゼカリヤ書14章17節から20節）

先ほどお伝えしたように、イエスの初臨に関しては300以上の預言があります。しかし、その内のいくつかは、「繰り返し」です。つまり、本当にそれらをまとめて、繰り返している部分を省けば、イエスの初臨に関する預言は約109。しかし、「主の再臨」と「千年王国の統治」に関するものは、それをはるかに上回ります。そして初臨の預言は文字通り成就したのですから、再臨の預言も同様であると考えるのが当然です。ですから、私たちは旧約聖書を真剣に受けとめるべきで、私たちは終わりの時について、それが預言的に告げていることを学ばなければなりません。

次に千年王国の政治的な側面について。これで、今はまだ千年王国ではないことを、みなさんは理解されるでしょう。まず第一に、聖書は、「世界的に統治される」と告げています。
主の統治は世界規模です。地球全体で王は1人だけ。今日の私たちは、そうですか？　いいえ。
イザヤ書2章2節、イザヤ書9章6節から7節。

終わりの日に、主の家の山は、山々の頂に堅く立ち、丘々よりもそびえ立ち、すべての国々がそこに流れて来る。（イザヤ2章2節）

ひとりのみどりごが、私たちのために生まれる。ひとりの男の子が、私たちに与えられる。主権はその肩にあり、その名は「不思議な助言者、力ある神、永遠の父、平和の君」と呼ばれる。その主権は増し加わり、その平和は限りなく、ダビデの王座に着いて、その王国を治め、さばきと正義によってこれを堅く立て、これをささえる。今より、とこしえまで。万軍の主の熱心がこれを成し遂げる。（イザヤ9章6節から7節）

そして、「事実上の平和がある」。
もしもし？現在、地球全体に平和がありますか？　いいえ。
しかし、イザヤ書2章4節は、そう告げています。

主は国々の間をさばき、多くの国々の民に、判決を下す。彼らはその剣を鋤に、その槍をかまに打ち直し、国は国に向かって剣を上げず、二度と戦いのことを習わない。（イザヤ2章4節）

「世界は、義と正義で祝福される」
は？これは、いまの私たちにありますか？
マニラでさえ、それは無いと言えるでしょう。
行政長官の全員は、代が変わるたびに、さらにどんどん崩壊してゆきます。そこには崩壊が存在し、罪が存在しています。

正義をもって寄るべのない者をさばき、公正をもって国の貧しい者のために判決を下し、口のむちで国を打ち、くちびるの息で悪者を殺す。正義はその腰の帯となり、真実はその胴の帯となる。
（イザヤ11章4節から5節）

彼はいたんだ葦を折ることもなく、くすぶる燈心を消すこともなく、まことをもって公義をもたらす。
彼は衰えず、くじけない。ついには、地に公義を打ち立てる。島々も、そのおしえを待ち望む
（イザヤ42章3節から4節）

「主の王座が、エルサレムに設けられ、主が、ダビデの王座から統治される」
それは存在していますか？
神殿の丘でさえ、ユダヤ人の手に渡っていますか？
彼らの神殿は、そこに立っていますか？
いいえ！

多くの民が来て言う。「さあ、主の山、ヤコブの神の家に上ろう。主はご自分の道を、私たちに教えてくださる。私たちはその小道を歩もう。」それは、シオンからみおしえが出、エルサレムから主のことばが出るからだ。（イザヤ2章3節）

あなたの目は、麗しい王を見、遠く広がった国を見る。あなたの心は、恐ろしかった事どもを思い起こす。「数えた者はどこへ行ったのか。測った者はどこへ行ったのか。やぐらを数えた者はどこへ行ったのか。」あなたは、もう横柄な民を見ない。この民のことばはわかりにくく、その舌はどもって、わけがわからない。私たちの祝祭の都、シオンを見よ。あなたの目は、安らかな住まい、取り払われることのない天幕、エルサレムを見る。その鉄のくいはとこしえに抜かれず、その綱は一つも切られない。しかも、そこには威厳のある主が私たちとともにおられる。そこには多くの川があり、広々とした川がある。櫓をこぐ船もそこを通わず、大船もそこを通らない。まことに、主は私たちをさばく方、主は私たちの立法者、主は私たちの王、この方が私たちを救われる。（イザヤ33章17節から22節）

政権が、神権政治となる。つまり主が、王、国会議員、それと裁判官の務めを果たされます。イザヤが、そう告げています。それは、今日、起こっていますか？　今日、みんなが最高裁にひざまずいています。彼らが政府を支配しています。

見よ。ひとりの王が正義によって治め、首長たちは公義によってつかさどる。（イザヤ32章1節）

「贖われた者たちが王の子どもたちとして、主と共に統治する」
みなさんは、すでに統治していますか？いいえ！まだしていません。

神である主はこう仰せられる。「見よ。わたしは国々に向かって手を上げ、わたしの旗を国々の民に向かって揚げる。彼らは、あなたの息子たちをふところに抱いて来、あなたの娘たちは肩に負われて来る。王たちはあなたの世話をする者となり、王妃たちはあなたのうばとなる。彼らは顔を地につけて、あなたを伏し拝み、あなたの足のちりをなめる。あなたは、わたしが主であることを知る。わたしを待ち望む者は恥を見ることがない。」（イザヤ49章22から23節）

いま、私が言っているのは、自然界の話ではありませんよ？政治的な視点での話です。なぜなら、主がエルサレムで統治される時、イスラエル国家は、政界の主要国家となりますから。**（イザヤ60章1節から62章7節）**今は、そうではありません。みなさん、CNNを見てください。彼らが語っているのは、大半がアメリカです。今日のアメリカは、世界の大国、世界で起こっていることの中心で、あそこで起こっていることが、全世界に映し出されます。中国が第2、ロシアが第3です。認めましょう。イスラエルは、神があそこでされたあらゆる素晴らしいことをもってしても、まだ、世界の主要国家ではありません。

では、千年王国の霊的状態はどうでしょうか？聖書は告げています。「主の栄光と神聖さが表明される」

**荒野に呼ばわる者の声がする。「主の道を整えよ。荒地で、私たちの神のために、大路を平らにせよ。
すべての谷は埋め立てられ、すべての山や丘は低くなる。盛り上がった地は平地に、険しい地は平野となる。
このようにして、主の栄光が現されると、すべての者が共にこれを見る。主の御口が語られたからだ。」
（イザヤ40章3節から5節）**

見よ。わたしのしもべは栄える。彼は高められ、上げられ、非常に高くなる。多くの者があなたを見て驚いたように、ーーその顔立ちは、そこなわれて人のようでは無く、その姿も人の子らとは違っていたーー　そのように、彼は多くの国々を驚かす。王たちは彼の前で口をつぐむ。彼らは、まだ告げられなかったことを見、まだ聞いたこともないことを悟るからだ。（イザヤ52章13節から15節）

わたしは、彼らのわざと思い計りとを知っている。わたしは、すべての国々と種族とを集めに来る。彼らは来て、わたしの栄光を見る。（イザヤ66章18節）

「神聖さが満ちあふれる」

**その日、主の若枝は、麗しく、栄光に輝き、地の実は、イスラエルののがれた者の威光と飾りになる。
シオンに残された者、エルサレムに残った者は、聖と呼ばれるようになる。みなエルサレムでいのちの書にしるされた者である。主が、さばきの霊と焼き尽くす霊によって、シオンの娘たちの汚れを洗い、エルサレムの血をその中からすすぎ清めるとき、（イザヤ4章2節から4節）**

これは、イザヤ書40章、52章、66章です。

「喜びと賛美が勝利する」

主に贖われた者たちは帰って来る。彼らは喜び歌いながらシオンに入り、その頭にはとこしえの喜びをいただく。楽しみと喜びがついて来、悲しみと嘆きとは逃げ去る。（イザヤ35章10節）

申し訳ありませんが、最近、ユダヤ人に会ったことがありますか？
「ため息」が、私たちの別名です。私たちの牛でさえ、乳を出しながら「モー」。

「エルサレムに神殿が建ち、そこが世界の礼拝の中心となる」

終わりの日に、主の家の山は、山々の頂に堅く立ち、丘々よりもそびえ立ち、すべての国々がそこに流れて来る。多くの民が来て言う。「さあ、主の山、ヤコブの神の家に上ろう。主はご自分の道を、私たちに教えてくださる。私たちはその小道を歩もう。」それは、シオンからみおしえが出、エルサレムから主のことばが出るからだ。（イザヤ2章2節から3節）

また、主に連なって主に仕え、主の名を愛して、そのしもべとなった外国人がみな、安息日を守ってこれを汚さず、わたしの契約を堅く保つなら、わたしは彼らを、わたしの聖なる山に連れて行き、わたしの祈りの家で彼らを楽しませる。彼らの全焼のいけにえやその他のいけにえは、わたしの祭壇の上で受け入れられる。わたしの家は、すべての民の祈りの家と呼ばれるからだ。ーーイスラエルの散らされた者たちを集める神である主の御告げーーわたしは、すでに集められた者たちに、さらに集めて加えよう。」
（イザヤ56章6から8節）

わたしは、私の美しい家を輝かす。（イザヤ60章7b節）

レバノンの栄光は、もみの木、すずかけ、檜も、共に、あなたのもとに来て、私の聖所を美しくする。わたしは、わたしの足台を尊くする。（イザヤ60章13節）

これが、本当にあちら側にありますか？まだ、ありません。イザヤ書2章、イザヤ書56章、イザヤ書60章。

「驚くべき神のシャカイナ・グローリーが、エルサレムの都の上を幕のように覆う」

主は、シオンの山のすべての場所とその会合の上に、昼は雲、夜は煙と燃える火の輝きを創造される。それはすべての栄光の上に、おおいとなり、仮庵となり、（イザヤ4章5節）

あちらには、まだありません。

「まことに、水が海をおおうように、地は、主の栄光を知ることで満たされる。」（ハバクク2章14節）

いまの私たちに、これがありますか？私たちは、何を増していますか？知識ではなく、欺き、崩壊、罪が満ちています。これが、現在の私たちにあるものです。

自然は、どうでしょうか？みなさんに、あえて言いますが、アフリカのライオンがいるジャングルに行ってみてください。その中を、ただ歩いてみてください。「ハロー、ネコチャン」とやってみてください。

聖書は告げています。「イスラエルの地は、もはや荒れ果てた地ではない」

あなたの国はもう、「荒れ果てている」とは言われない。（イザヤ62章4節）

事実です。

地の実は、イスラエルののがれた者の威光と飾りになる（イザヤ4章2節）

荒野に水がわき出し…（イザヤ35章6b節）

それは、始まりました。

それから聖書は言います。「動物王国は、元の完璧な状態に回復する」「毒を持つ動物は、毒を持たなくなり、肉食獣は、草食動物になる」

狼は子羊とともに宿り、ひょうは子やぎとともに伏し、子牛、若獅子、肥えた家畜が共にいて、小さい子どもがこれを追っていく。雌牛と熊とは共に草をはみ、その子らは共に伏し、獅子も牛のようにわらを食う。乳飲み子はコブラの穴の上で戯れ、乳離れした子はまむしの子に手を伸べる。わたしの聖なる山のどこにおいても、これらは害を加えず、そこなわない。主を知ることが、海をおおう水のように、地を満たすからである。（イザヤ11章6節から9節）

想像できますか？ライオンがベジタリアンになるのです！私は、よく人から「ベジタリアンですか？」と聞かれるので、いつも、こう答えます。
「私が食べているステーキの肉は、ベジタリアンの牛です」

みなさん、動物王国のメンバーは、全員がお互いと人間と共に、完璧な平和の中で暮らします。
これは現在、私たちにありますか？
ジャングルの中を歩いてみてください。
毒をもったコブラかなにかの所に行ってみてください。
もし、あなたが死にたいなら。
しかし千年王国では違います。イザヤ書を読めば、11章と65章の両方で…。信じてください。私はこのメッセージをまとめる前に、この箇所を読みましたが、神がいかに物事を回復されるかの完璧な描写です。

狼と子羊は共に草をはみ、獅子は牛のように、わらを食い、蛇は、ちりをその食べ物とし、わたしの聖なる山のどこにおいても、これらは害を加えず、そこなわない」と主は仰せられる。（イザヤ65章25節）

思い出してください。このとき、サタンがここにおらず、だれのことも欺かないのです。
思い出してください。彼は、あの底なしの穴に千年間、閉じ込められるのです。
そして人類は、「あれは、この世におけるサタンの影響だった」とは、もう言えなくなるのです。

では、どうして皆が、この千年王国について欺かれているのでしょう？みなさん、気がつきませんか？世界中の牧師の半分が、私たちは、もうすでに千年王国にいる、と信じているのです。みなさんがご存じかどうかは分かりませんが、クリスチャンとユダヤ人の両方の間に、大きな欺きがあるのです。

まず第一に、ユダヤ人の思考の中では、千年王国はメシアの初臨です。ユダヤ人たちがイエスを拒絶したその一部は、彼らがこう言ったためです。「申し訳ないが、メシアが統治する時にあるべきことを、私たちは、まだ見ていない」分かりますか？彼らは、主の「訪れ」を逃したのです。「訪れ」とは、なんですか？彼は、罪の問題のためにだけ来られました。彼は、ほんの短期間のために来られたのです。彼は留まりません。彼

らは、それを逃したのです！彼らは、再臨を、まるで初臨のように待っているのです。彼らは千年王国を、それが「キリストの統治」であるかのように待ち望んでいるのです。だから、今の今まで、メシアはまだ来ていません。彼らの思考の中で、敵が彼らを欺いて言ったのです。「イエスを拒絶しろ。あきらかに、彼はメシアが来た時にお前たちが望んでいる世をもたらしていない」。ですから、ユダヤ人の思考の中では、私たちが“再臨”と呼ぶものを、彼らは“初臨”と呼び、私たちが、“千年王国”と呼ぶものを、彼らは、“イスラエルのメシアの時代”と呼びます。敵が彼らを盲目にし、千年王国がどういうものかを理解できなくしています。

では、教会はどうでしょうか？みなさんがご存じかどうかは分かりませんが、今日、“クリスチャン”と自称する人のほとんどが、今日、“聖書を教える教会である”と自称している教会のほとんどが、『無千年王国派』（ア・ミレ）です。『無千年王国派』とは、彼らは千年王国を信じていません。『無千年王国派』という聖書預言の視点は、今日の教会の過半数で、カトリックと、ほとんどのプロテスタントの主流宗派の両方が支持しています。彼らを欺くことにおいて、敵は大成功を収めています。『無千年王国派』が信じているのは、「イエスが、現在、教会を通して天国から世界を統治されている。したがって、今が千年王国である。それは十字架で始まり、再臨まで続くと信じている」。
は？！まず第一に、失礼ながら言わせてもらうと、すでに2千年が過ぎています。千年をはるかに超えています。それから千年王国の特徴のすべては、あきらかに今日のどれひとつとして当てはまりません。

では、だれが統治するのでしょうか？ダビデ王か？それとも、王であるイエスか？
なぜなら、みなさんにお伝えしたいことがあるのです。エゼキエル34章が告げています。これを見てください。

わたしは、彼らを牧するひとりの牧者、わたしのしもべダビデを起こす。彼は彼らを養い、彼らの牧者となる。主であるわたしが彼らの神となり、わたしのしもべダビデはあなたがたの間で君主となる。主であるわたしがこう告げる。（エゼキエル34章23節から24節）

それから、エレミヤ30章9節。

彼らは彼らの神、主と、わたしが彼らのために立てる彼らの王ダビデに仕えよう。（エレミヤ30章9節）

ですから、主にユダヤ人ですが、多くのクリスチャンの中にも多くの混乱があるのです。「だれが、千年王国の王なのか？イエス？それともダビデ？」私はこれを正したいと思います。
「よみがえりの順序」を思い出してください。旧約聖書の聖徒の中にダビデもいて、彼らは、ヤコブの苦難の時の終わりによみがえり、千年王国の初めに突入します。ここからがポイントです。ユダヤ人は、時にメシアをダビデとして言及します。メシアが、ダビデの血筋から出ることで知られていたためです。新約聖書は、たびたびイエスを「ダビデの子」として言及しています。覚えていますか？マタイ15章22節、マルコ10章47節。

すると、その地方のカナン人の女が出て来て、叫び声を上げて言った。「主よ。ダビデの子よ。私をあわれんでください。娘が、ひどく悪霊に取りつかれているのです。」（マタイ15章22節）

ところが、ナザレのイエスだと聞くと、「ダビデの子のイエスさま。私をあわれんでください」と叫び始めた。（マルコ10章47節）

メシアが「ダビデ」と言及される理由は、他にもあります。旧約聖書の中で、ダビデ王は神の御心にかなった人でした。（使徒の働き13章22節）

それから、彼を退けて、ダビデを立てて王とされましたが、このダビデについてあかしして、こう言われました。『わたしはエッサイの子ダビデを見いだした。彼はわたしの心にかなった者で、わたしのこころを余すところなく実行する。』（使徒の働き13章22節）

では、イエスはどうでしょう。彼は、神がご自身によって選ばれたが、王のようではなく、「神の霊が下っ」ていました。（第1サムエル16章12節から13節）

エッサイは人をやって、彼を連れて来させた。その子は血色の良い顔で、目が美しく、姿もりっぱだった。主は仰せられた。「さあ、この者に油をそそげ。この者がそれだ。」サムエルは油の角を取り、兄弟たちの真ん中で彼に油をそそいだ。主の霊がその日以来、ダビデの上に激しく下った。サムエルは立ち上がってラマへ帰った。（第1サムエル16章12節から13節）

当時のダビデは、キリストの“ひな型”でした。“ひな型”とは、他のだれかを予見する人物です。ところで、このような予見の他の例では、エリヤです。彼のミニストリーは、バプテスマのヨハネの影でした。その延長としてマラキで、彼は、ヨハネをエリヤと呼んでいます。マラキ4章5節、ルカ1章17節、マルコ9章11節から13節、その他。

見よ。わたしは、主の大いなる恐ろしい日が来る前に、預言者エリヤをあなたがたに遣わす。
（マラキ4章5節）

彼こそ、エリヤの霊と力で主の前ぶれをし、父たちの心を子どもたちに向けさせ、逆らう者を義人の心に立ち戻らせ、こうして、整えられた民を主のために用意するのです。（ルカ1章17節）

彼らはイエスに尋ねて言った。「律法学者たちは、まずエリヤが来るはずだと言っていますが、それはなぜでしょうか。」イエスは言われた。「エリヤがまず来て、すべてのことを立て直します。では、人の子について、多くの苦しみを受け、さげすまれると書いてあるのは、どうしてなのですか。しかし、あなたがたに告げます。エリヤはもう来たのです。そして人々は、彼について書いてあるとおりに、好き勝手なことを彼にしたのです。」（マルコ9章11節から13節）

みなさん、間違ってはいけません。ダビデは千年王国の初めに、他の旧約聖書の聖徒たちと一緒によみがえります。そしてダビデは、イエスと共に王国を統治する者たちの“ひとり”です。「唯一」ではありません。しかしながら、全信者が諸国を支配し、世界を裁きます。使徒ペテロは、クリスチャンを、「選ばれた種族、王である祭司、聖なる国民」（第1ペテロ2章9節）と呼んでいます。黙示録3章21節で、イエスは勝利した信者のことを、このように呼んでいます。「勝利を得る者を、わたしとともにわたしの座に着かせよう。」（黙示録3章21節）それから、クリスチャンたちは、支配に関して、キリストと権威を共有するのです。それが、エペソ人への手紙2章6節が告げていることです。

キリスト・イエスにおいて、ともによみがえらせ、ともに天の所にすわらせてくださいました。
（エペソ2章6節）

ところで、聖書的な証拠がいくつかありますが、“10ミナ”のたとえ（ルカ19章17節）で、それぞれに、多かれ少なかれ王国での権威が与えられると聖書は伝えています。それは今、この時代に、神に与えられた責任を、私たちがどう扱ったかに従って決まるのです。

主人は彼に言った。『よくやった。良いしもべだ。あなたはほんの小さな事にも忠実だったから、十の町を支配する者になりなさい。』（ルカ19章17節）

だから、今日、千年王国について勉強をすることは、非常に重要なのです。イエスは王の王です。（黙示録19章16節）人間的に言えば、イエスは、ダビデ王家の継承者です。しかし、権力、栄光、義、その他すべてにおいて、彼は、“ダビデより偉大なる方”と呼ばれるにふさわしい方です。

その着物にも、ももにも、「王の王、主の主」という名が書かれていた。（黙示録19章16節）

「主権はその肩にあり」（イザヤ9章6節）彼は、私たちに与えられた「ひとりの男の子」です。旧約、新約聖書が、千年王国と永遠の時の将来的な王について明らかにしています。それはイエス・キリスト、ただおひとりです。エレミヤ書23章、イザヤ書9章7節、イザヤ書33章22節、黙示録17章、第1テモテ6章15節。

見よ。その日が来る。ーー主の御告げーーその日、わたしは、ダビデに一つの正しい若枝を起こす。彼は王となって治め、栄えて、この国に公義と正義を行う。（エレミヤ23章5節）

その主権は増し加わり、その平和は限りなく、ダビデの王座に着いて、その王国を治め、さばきと正義によってこれを堅く立て、これをささえる。今より、とこしえまで。万軍の主の熱心がこれを成し遂げる。
（イザヤ9章7節）

まことに、主は私たちをさばく方、主は私たちの立法者、主は私たちの王、この方が私たちを救われる。
（イザヤ33章22節）

この者どもは小羊と戦いますが、小羊は彼らに打ち勝ちます。なぜならば、小羊は主の主、王の王だからです。また彼とともにいる者たちは、召された者、選ばれた者、忠実な者だからです。」（黙示録17章14節）

その現れを、神はご自分の良しとする時に示してくださいます。神は祝福に満ちた唯一の主権者、王の王、主の主…（第1テモテ6章15節）

私は聖書が大好きです。なぜなら、聖書が聖書を解説していますから。

彼は、どこで統治されるのか？ イエスは、エルサレムから、この地を統治するために来られる。このために、エルサレムはユダヤ人の手に戻らなければならないのです。このために彼らは戻ってこなければならず、このためにトランプ大統領による大使館の移転が必要だったのです。みなさんは、きっと軽く考えすぎているでしょう。しかし、これは預言的なことです。世界の大国が、エルサレムを「イスラエルの人々の場所」だと認識したのです。これは、彼らが神殿を建てるステップの一歩手前です。ゼカリヤ14章3節から5節。

主が出て来られる。決戦の日に戦うように、それらの国々と戦われる。その日、主の足は、エルサレムの東に面するオリーブ山の上に立つ。（これは、エルサレムの東側に面しています）**オリーブ山は、その真ん中で二つに裂け、東西に延びる非常に大きな谷ができる。山の半分は北へ移り、他の半分は南へ移る。山々の谷がアツァルにまで達するので、あなたがたは、わたしの山々の谷に逃げよう。ユダの王ウジヤの時、地震を避けて逃げたように、あなたがたは逃げよう。私の神、主が来られる。すべての聖徒たちも主とともに来る。（ゼカリヤ14章3節から5節）**

イエスは、エルサレムに戻ってこられます。彼は、私たち全員と共に戻って来られるのです。私は、いつも言うのですが、イエスの「再臨」の時、あなたは彼の顔ではなく、背中を見るようにしなければなりません。

なぜなら、彼は敵を御口の息で滅ぼすために来られるのですから。しかし、あなたが彼の後ろで馬に乗って天国から下りて来るなら、あなたは彼と一緒です。私は、イエスと顔と顔を合わせたいと願うのと同じぐらい…携挙の時に、私は主と顔と顔を合わせます。それから彼は私を連れて行き、私は彼と一緒にいて、そして、私が戻ってくる時には彼が先頭で、私は彼の後ろで馬に乗るのです。その時は彼の顔ではなく、背中を見なければなりません。

「千年王国の間のイスラエルの救いに関する言及はあるのか？」
もちろん！ゼカリヤ書12章10節が告げています。

わたしは、ダビデの家とエルサレムの住民の上に、恵みと哀願の霊を注ぐ。彼らは、自分たちが突き刺した者、わたしを仰ぎ見、ひとり子を失って嘆くように、その者のために嘆き、初子を失って激しく泣くように、その者のために激しく泣く。（ゼカリヤ12章10節）

イエスが戻って来られる時、イスラエルが言うのです。

『祝福あれ。主の御名によって来られる方に。』（マタイ23章39節）

イエスは言われました。

エルサレム、『”Baruch Haba B’shem,Adonai』とあなた方が言うときまで、あなたがたは今後決してわたしを見ることはありません。（マタイ23章39節）

あなたがたが、わたしを招かなければならない。ホセア5章は告げています。

彼らは苦しみながら、わたしを捜し求めよう。（ホセア5章15節）

これは大患難の後で、それは、彼らの救いのためにあるのです。彼らは捜し求めて、そして叫びます。

『”Baruch Haba B’shem,Adonai』

彼らは、ひとり子を失って嘆くように、その者のために嘆き、初子を失って激しく泣くように、その者のために激しく泣く。（ゼカリヤ12章10節）

彼らは理解するのです。「2千年の間、私たちは間違っていた。彼が、私たちのメシアだ！」私たちが突き刺した方、私たちが罪に定めた方、「われわれの王ではない！」「われわれのメシアではない！」「われわれの贖い主ではない！」と私たちが考えた方。彼がメシアだ！彼が贖い主だ！彼が王の王、主の主だ！私たちは信じていればこの大患難を逃れられたのに！！

みなさんは、大患難が始まる前に選ぶ特権にあずかっているのです。

エレミヤは、千年王国のことをこのように描写しています。

イスラエルとユダが平和の中で団結し、エルサレムは『主の御座』と呼ばれる。
（エレミヤ3章17節から18節）

『正しい若枝』であるイエスが、『王となって治め、栄えて、この国に公義と正義を行う』

見よ。その日が来る。ーー主の御告げーーその日、わたしは、ダビデに一つの正しい若枝を起こす。彼は王となって治め、栄えて、この国に公義と正義を行う。（エレミヤ23章5節）

そして、王としての彼の新しい役割のために、イエスの御名は、”Yahweh Tsidkenu”と変わります。その意味は、『主は私たちの正義』（エレミヤ23章6節）。

ダビデもまた、栄光のからだでイスラエルの王として立てられます。（エレミヤ30章9節）

彼らは彼らの神、主と、わたしが彼らのために立てる彼らの王ダビデに仕えよう。（エレミヤ30章9節）

聖書は告げています。「イスラエルの敵は滅ぼし尽くされる」（エレミヤ30章11節）

わたしがあなたとともにいて、ーー主の御告げーーあなたを救うからだ。わたしは、あなたを散らした先のすべての国々を滅ぼし尽くすからだ。しかし、わたしはあなたを滅ぼし尽くさない。公義によって、あなたを懲らしめ、あなたを罰せずにおくことは決してないが。」（エレミヤ30章11節）

「エルサレムの都と神殿が、再建される」（エレミヤ30章18節）

主はこう仰せられる。「見よ。わたしはヤコブの天幕の繁栄を元どおりにし、その住まいをあわれもう。町はその廃墟の上に建て直され、宮殿は、その定められている所に建つ。（エレミヤ30章18節）

「人口が増える」（エレミヤ30章19節）

彼らの中から、感謝と、喜び笑う声がわき出る。わたしは人をふやして減らさず、彼らを尊くして、軽んじられないようにする。（エレミヤ30章19節）

「ユダヤ人たちの悲しみは、喜びに変わる」（エレミヤ31章13節）

そのとき、若い女は踊って楽しみ、若い男も年寄りも共に楽しむ。「わたしは彼らの悲しみを喜びに変え、彼らの憂いを慰め、楽しませる。（エレミヤ31章13節）

「ユダヤ人はメシアを拒絶したことを悔い改めて、彼らは、神との新しい契約に入る。そして、彼らの心にそれが書きしるされる」（エレミヤ31章31節から34節、エレミヤ32章37節から40節）

見よ。その日が来る。ーー主の御告げーーその日、わたしは、イスラエルの家とユダの家とに、新しい契約を結ぶ。その契約は、わたしが彼らの先祖の手を握って、エジプトの国から連れ出した日に、彼らと結んだ契約のようではない。わたしは彼らの主であったのに、彼らはわたしの契約を破ってしまった。ーー主の御告げーー彼らの時代の後に、わたしがイスラエルの家と結ぶ契約はこうだ。ーー主の御告げーーわたしはわたしの律法を彼らの中に置き、彼らの心にこれを書きしるす。わたしは彼らの神となり、彼らはわたしの民となる。そのようにして、人々はもはや、『主を知れ』と言って、おのおの互いに教えない。それは、彼らがみな、身分の低い者から高い者まで、わたしを知るからだ。ーー主の御告げーーわたしは彼らの咎を赦し、彼らの罪を二度と思い出さないからだ。」（エレミヤ31章31節から34節）

見よ。わたしは、わたしの怒りと、憤りと、激怒とをもって散らしたすべての国々から彼らを集め、この所に帰らせ、安らかに住まわせる。彼らはわたしの民となり、わたしは彼らの神となる。わたしは、いつもわたしを恐れさせるため、彼らと彼らの後の子らの幸福のために、彼らに一つの心と一つの道を与え、わたしが彼らから離れず、彼らを幸福にするため、彼らととこしえの契約を結ぶ。わたしは、彼らがわたしから去らないようにわたしに対する恐れを彼らの心に与える。（エレミヤ32章37節から40節）

エレミヤ書31章31節は、新しい契約について告げています。新約聖書が、ユダヤ人たちに約束されています。

エルサレムの通りは、“楽しみの声と喜びの声”があふれる。（エレミヤ33章11節）

楽しみの声と喜びの声、花婿の声と花嫁の声、『万軍の主に感謝せよ。主はいつくしみ深く、その恵みはとこしえまで』と言って、主の宮に感謝のいけにえを携えて来る人たちの声が再び聞こえる。それは、わたしがこの国の繁栄を元どおりにし、初めのようにするからだ」と主は仰せられる。（エレミヤ33章11節）

さて、私たちは誰を統治するのでしょうか？ 支配者になるのは良いことですよ？でも、支配する対象が必要です。動物だけではありませんよ？もしもし？思い出してください。イエスが戻って来られるとき、彼は羊と山羊をより分けられます。覚えていますか？そして、彼は羊が彼の御国に入ることを許されます。千年王国です。彼らは増え広がります。彼らはまだ地上の体を持っていて、私たちは栄光の体を持っています。それがなければ、私たちは携挙されることすらできませんから。覚えていてください。まず、変えられなければ、携挙されることができません。第1コリント15章が告げています。

聞きなさい。私はあなたがたに奥義を告げましょう。私たちはみなが眠ってしまうのではなく、みな変えられるのです。終わりのラッパとともに、たちまち、一瞬のうちにです。

（第1コリント15章51節から52節）

しかし、地上にいる人たちは、私たちが戻ってくるときには、まだ地上の体なのです。みなさんは好きなだけドーナツが食べられますが、彼らは、それができません。ハロー？それだけで信じるには十分でしょう？それだけで、挙げられたいと思う理由には十分です。みんな、ダイエットや健康管理や医療費に何百万ドルと費やしますが、イエスを受け入れなさい！そうすれば、あなたの体は変えられるのです！しかし、ここに取り残される人たち、私たちが戻ってきたときに、まだ地上にいる人たちは、地上に増え広がるのです。すべての大患難の後、地上にまた人が増え広がります。私はそれを知っています。この後、これらの人々に何が起こるのかを、みなさんにお話しします。

みなさん、想像できますか？千年の間に、みなさんは非常に多くの人々が生まれては死に、生まれては死んでいくのを見るのです。千年王国の終わりに、みなさんは言うでしょう。「私は、君の曾・曾・曾・曾・曾・曾・曾祖父を知っているよ。彼は君より良い人だったな・・・」

「大患難を生き残った人々と、彼らの子孫が、私たちが支配する人たちである」

ゼカリヤ書14章は告げています。

生き残った者はみな、毎年、万軍の主である王を礼拝し、仮庵の祭りを祝うために（エルサレムに）上って来る。（ゼカリヤ14章16節）

残される人々がいます。神は彼らを残され、その彼らが増え広がるのです。そして、その違いは・・・ところで、今日のエルサレムと、千年王国のエルサレムとは同じ都です。私たちは、地上のエルサレムに戻ってくるのです。新しいエルサレムは、まだそこにはありません。それでも千年王国のエルサレムは、少し違います。まず第一に、聖書は言います。

「いのちの川ができる」（エゼキエル47章1節から12節）

これを見てください。「いのちの川」次へ行ってください。それから、エゼキエル47章の最初の12節、

彼は私を神殿の入り口に連れ戻した。見ると、水が神殿の敷居の下から東のほうへと流れ出ていた。神殿が東側に向いていたからである。その水は祭壇の南、宮の右側の下から流れていた。ついで、彼は私を北の門から連れ出し、外を回らせ、東向きの外の門に行かせた…。

彼は、水について語っているのです。

… この水は東の地域に流れ、アラバに下り、海に入る。海に注ぎ込むとそこの水は良くなる。…この川が流れていく所はどこででも、そこに群がるあらゆる生物は生き、非常に多くの魚がいるようになる。この水がはいると、そこの水が良くなるからである。」（エゼキエル47章1節から12節）

ところで、ゼカリヤ書14章でもまた、同じ川について語っています。

その日、主の足は、エルサレムの東に面するオリーブ山の上に立つ。オリーブ山は、その真ん中で二つに裂け…その半分は東の海に、他の半分は西の海に流れ…。（ゼカリヤ14章4節、8節）

そして、エルサレムに川ができるのです。今日、エルサレムに川はありません。また、エルサレムには、今日、神殿がありません。しかし聖書は、エゼキエルの5つの章、40章から45章で第四神殿について語っています。「ちょっと待って！第四？」そうです。第三神殿は、大患難の最中に建てられます。私たちが、ここを出て行ったときに。反キリストが、そこから支配しますね？覚えていますか？しかし、イエスが来ると、すべてが滅ぼされます。地震が起こります。そして、それから第四です。
ここでみなさんに質問ですが、「千年は、長期間ではありませんか？」「
はいはい。言いたいことは分かったよ」ですか？
みなさんに言いたいことがあります。私たちは変えられます。覚えていますか？私たちの体は変えられ、すべてが変わります。千年は、ここに住む人たちのためのものです。しかし覚えていますか？聖書は、第2ペテロ3章8節から9節で、このように告げています。

しかし、愛する人たち。あなたがたは、この一事を見落としてはいけません。すなわち、主の御前では、一日は千年のようであり、千年は一日のようです。（第2ペテロ3章8節）

大きな可能性として、私たちにとってはまるで1日のように感じ、ここに残る人たちにとって、現実は千年のように感じるのかもしれません。いよいよ、ここからポイントです。

「この王国の目的は何か？」

なぜ神は、私たちが千年の間、この堕落した世で、この堕落した人々を統治することを望まれるのか？サタンは、その期間だけいなくなります。イエスが初臨について言われたことを覚えていますか？

神が御子を世に遣わされたのは、世をさばくためではなく、御子によって世が救われるためである。
（ヨハネ3章17節）

イエスは初め、世を救うために来られました。しかし２度目は、使徒の働き17章。

なぜなら、神は、お立てになったひとりの人により義をもってこの世界をさばくため、日を決めておられるからです。（使徒の働き17章31節）

使徒の働き17章31節、「主は、義をもってこの世をさばかれる」

もし、神が義をもって全世界を裁こうとされているなら、神は、神の義を表示したいのです。イザヤ書11章とイザヤ書61章。真理は、主の「初臨」で宣べ伝えられ、そして「再臨」で表されます。それでも、なんですか？「諸国は、まだ無知のままである」

イエスが最初に来られたときは、まだ「信じない」と言うことも可能です。まあ、彼は貧しく、ロバに乗って、涙を流し、泣かれたし、彼は十字架の上の盗人のように死なれましたから。この全貌は、みなさんが考える“王”とは重ならないかもしれません。だから、もしかすると、あなたは主の初臨を逃してしまったのかもしれません。いいですね？でも、もし千年の後、彼が馬に乗って来られて、御口の息をもって主の敵を滅ぼされ、地上に神の王国を創設されるなら、しかも周りにはサタンはいません。彼は千年の間、縛られていますから。みなさんは、だれもが自動的に信じると思うでしょう。違いますか？　それに、「サタンのせいで…」とは言えません。彼は、そこにいませんから！彼は千年の間、閉じ込められるのです。彼はいませんよ！すべてを彼のせいにするのは、やめなさい！

イエスが再臨について語られたにも関わらず、どうして人々にとって、信じるのがそれほど困難なのか？聞いてください。みんな、イエスが戻って来られることを信じません。クリスチャンのほとんどが、イエスの肉体的再臨を信じていません。みなさん、それをご存じかどうか分かりませんが。なぜだか分かりますか？

なぜなら、イエスは馬に乗って戻って来ます。政治的指導者の立場を取られます。「政治と信仰を一緒にしないでくれ！」していませんよ。イエスは、政治的指導者として来られるのです。「私は、ロバに乗っている主の方が好きだな」それは、あなたの好みであって、主は馬に乗って来られます。ごめんなさい！イエスは敵を滅ぼし尽くす、「戦いの人」として来られる。みなさん、私たちは十字架の上の彼を愛しています。反対の頬を差し出し、血を流して、私たちを赦してくださる方。私たちは、彼に十字架の上で留まっていてほしい。もしくは、小さな赤ん坊のまま。しかし彼は、「戦いの人」として来られます。みんな、そのことに苦労します。彼らは政治的人物として見るのを嫌がり、彼らは敵と戦うために来られる方を見たがりません。しかし、イエスは来られます。もはや、世を救うためではありません。それは、彼の初臨です。では、なんのために？世を裁くためです。「ああ、イエスは赦してくださるさ」「彼は愛しておられる」イエスは、世を裁くために来られます。初臨は世を救うためで、みなさんには、今、チャンスがあります。しかしみなさんへのニュースは、彼が言われたのです。彼の再臨は、「救うためではなく、裁くためだ」

千年王国には、2つの裁きが行われます。2つあるのです。ひとつは、「羊とやぎ」（ヨエル3章1節から2節、マタイ25章31節から46節）千年王国にさしかかる時です。ヨエル3章とマタイ25章。イエスは戻って来られ、世界の人々を、これらの間で分けられます。ところで、このどちらのケースも、「彼らがどのようにイ

スラエルを扱ったか」です。興味深いですね。だからみなさんに、イスラエルを愛し、支援し、イスラエルのために祈るように教える牧師や指導者たちが、非常に重要なのです。聖書は、ヨエル3章で、そのことについて次のように告げています。

見よ。わたしがユダとエルサレムの捕らわれ人を返す、その日、その時、わたしはすべての国民を集め、彼らをヨシャパテの谷に連れ下り、その所で、彼らがわたしの民、わたしのゆずりの地イスラエルにしたことで彼らをさばく。彼らはわたしの民を諸国の民の間に散らし、わたしの地を自分たちの間で分け取ったからだ。彼らはわたしの民をくじ引きにし…。（ヨエル3章1節から3節）

彼は、彼の民に対する責任で、すべての諸国を裁かれます。彼らは、神の民に対して何をしたか？それから、マタイで彼が「羊とやぎ」について語られた時、こう言われました。

あなたがたが、これらのわたしの兄弟たち、（ユダヤ人のことです）しかも、最も小さい者たちのひとりにしたのは、わたしにしたのです（マタイ25章40節）

わお！そして、千年王国の終わりには、「大きな白い御座」（黙示録20章11節から15節）。その時、彼は全世界を裁かれます。2つの異なる裁きです。1つは、この表を見てください。ずっと最後まで。ひとつめは、彼が私たちと戻ってくる時。これは、「羊とやぎ」の裁きです。そして2つめは、その終わりで、彼が全世界を裁かれる時です。その時、彼のものではない世界は、下に下ります。彼は、私たちのために天から新しいエルサレムをもたらされます。

今日の私たちが、千年王国のような、そんなに遠い未来について学ぶことが、それほど重要なのか？
とても重要です。なぜなら、今日のあなたの決断が、将来のあなたの居場所と役割に影響しますから。もし今日、あなたが彼を選ぶなら、あなたは将来、彼と共に統治します。あなたが彼を否定するなら、彼は御父の前であなたを否定します。とてもシンプルです。だから、これが聖書にあるのです。

なぜ、ヨハネに黙示を与えられたと思いますか？もし、今日のあなたに、それほど重要でなければ？なぜ、旧約聖書の預言者のすべてが、この啓示を与えられたのだと思いますか？もし、それほど重要でないなら？千年王国に昇進はありません。あなたは統治するか、だれかに統治されるかのどちらかです。昇進はありません。もしあなたが、政府か、または祭司に昇進したいのなら、今のあなたの決断が、将来、あなたを祭司にし、判事や、王、指導者にするのです。しかし、その時にはありません。対象者は、決して統治することはできません。みなさん、それを理解しなければなりません。今日、イエスに従いなさい。そうすれば明日、あなたは、彼と共に統治します。今日、イエスを拒絶すれば、あなたは、明日を見ることすらないかも知れません。第2テモテ2章11節から12節。

次のことばは信頼すべきことばです。『もし私たちが、彼とともに死んだのなら、彼とともに生きるようになる。もし耐え忍んでいるなら、彼とともに治めるようになる。もし彼を否んだなら、彼もまた私たちを否まれる。』（第2テモテ2章11節から12節）

よく聞かれる質問の1つは、「千年王国の期間、キリストを受け入れることはできるのか？」これは、もっともな疑問です。千年間、彼らはイエスを見ているのです。この人たちは、イエスが初めに来られた時に生まれていませんでした。彼らがキリストを拒絶したとして、彼らを責めることはできません。その千年王国にいて、彼らにはできるのか？

そこで私は、とても慎重にお答えしたいと思います。私に言えることは、すべて御言葉が基準です。千年王国の間、救いは、おそらく可能でしょう。なぜかと言えば、私は、だれひとりとして、イエスがこんなふうに言った人を見たことがありません。「あなたは、本当に信じたいのか？でも、わたしには興味がないな」違います。彼は、偽者には興味がないのです。彼らが彼の御名によってアレコレと行っても、彼がまったく

彼らを知らないのは、彼らが、彼のことを一度も本当に信じなかったからです。しかしながら、これは、特大の“しかしながら”ですよ？　もし、あなたが今、彼を拒絶すれば、あなたは、そこにはいないでしょう。言い換えれば、「千年王国で彼を信じよう」なんて、アテにしてはいけません。良いですか？あなたは、そこにはいませんよ？　千年王国の間に生まれた人たちには、もしかするとチャンスがあるかもしれません。しかし、あなたは？　だから…
聖書は告げています。

不法の者の到来は悪魔のわざで、あらゆる偽りと力と不思議としるしと、あらゆる不義の誘惑が滅びるものに向けられています。滅びは、彼らが救われるための真理の愛を受け入れなかったためです。それで神は彼らが偽りを信じるように迷いの力を送り、真理を信ぜずに不義をよろこぶものが、みな裁かれるようになさいました。（第2テサロニケ2章9節から12節）

分かりますか？今、あなたは、彼（イエス・キリスト）を受け入れなければなりません。私たちに唯一与えられている、あの王国に対して描写した御言葉は、それほど喜ばしいものではありません。「千年王国の間に生まれた人は、その時に救われ…」といった言葉は見つかりません。私が見つけたのは、なんだと思いますか？黙示録20章7節から10節で、私が見つけたものを見てください。

しかし千年の終わりに、サタンはその牢から解き放され…

覚えていますか？彼は、そこに千年間います。それから覚えていますか？「サタンは、そのあとでしばらくの間、“解き放されなければならない。”」（黙示録20章3節）そしていま、千年王国の終わりに来ていて、聖書は告げています。

地の四方にある諸国の民、すなわち、“ゴグとマゴグ”を惑わすために出て行き…、

そうです。また別のゴグとマゴグがあるのです。これは、究極のゴグとマゴグです。サタンの影響を受けたものが、神に選ばれた者たちに攻めて来ます。いま迫りつつあるゴグとマゴグの描写が、エゼキエルにあります。しかし、究極のゴグとマゴグは、千年王国の終わりです。それがみなさん、聖書は言います。

戦いのために彼らを召集する。彼らの数は海べの砂のようである。彼らは、地上の広い平地に上って来て、聖徒たちの陣営と愛された都とを取り囲んだ。

つまり聖徒、信者とそれから“愛された都”エルサレムが、世界の四方から攻撃されるのです。サタンが解き放たれると、人々は自動的に、またしても彼を選ぶのです！サタンが縛られていた千年の後、千年間、イエスが物理的に地上を統治して、彼らはだれを選ぶと思いますか？サタンです。聖書は告げています。

すると、天から火が降って来て、彼らを焼き尽くした。そして、彼らを惑わした悪魔は火と硫黄との池に投げ込まれた。そこは獣も、にせ預言者もいる所で、彼らは永遠に昼も夜も苦しみを受ける。
（黙示録20章7節から10節）

ですから、みなさんに言っておきます。私の聖書が「主イエスが“義をもって”世を裁かれる」と伝えるなら、それは世が果てしなく邪悪になるためで、千年王国は、私の考える限り、神が私たち全員にこう言っておられるのです。
「いいかい？わたしは、千年をあなたがたに与えよう。サタンは近所におらず、わたしが地球全体を統治する。ところがどうだ。あなたがたは、それでもまだサタンを選ぶのだ。だから、わたしが最後に裁く時、それは義だ」

千年王国の目的を理解されましたか？これは神の裁きに備えた、神と神の義の表れです。だから私は「千年王国まで信じるのを待ちなさい」とは言えないのです。ほとんどの場合、あなたは欺かれるでしょう。だから聖書は、これほど執拗に告げているのです。第2コリント6章2節の後半。

確かに、“今”は恵みの時、“今”は救いの日です。（第2コリント6章2節）

“その時”ではありません。ですから、みなさん全員に懇願します。「千年王国は、すでにある」なんて欺かれないでください。お願いですから、理解してください。「今は救いの日」です。もし、あなたが千年王国に入れば、ーーその確率は、非常に低いですがーーあなたが欺かれる確率は、さらに高くなります。イエスを選んでください。いのちを選んでください。そして、彼と共に統治してください。彼と共に支配して、彼と共に生きてください。天国での7年間と、地上での千年のためだけではなく、新しいエルサレムでの永遠のためにも。アーメン？

天のお父様、ありがとうございます。あなたは、あなたの知恵と、あなたの、どこまでも大いなる御手で、あなたは義をもって世を裁かれます。そして、人の心がどれほど邪悪であるかを私たちが理解するために、私たちに千年王国をお与えになります。私たちが、どれほど新しい心を必要としているか。それは、唯一、イエスを受け入れ、神の御霊で満たされることでしか得られません。ですからお父様。今日、いま一度、差し迫る今の時と季節で、私たちを満たしてください。私たちが、ただ聖くあって、聖い生活を送るだけではなく、人々にイエスについて伝えるように。彼らは、反キリストが支配、統治する時、激しく失望し、激しく欺かれます。彼は偽の平和を短期間与えることしかできませんから。そして、失望が襲います。

お父様。多くの人が真理を知るように祈ります。そして、強い惑わしに騙されないように。お父様。今日、私たちをお使いください。あなたの御言葉を伝え、あなたの御国に実りをもたらしますように。あなたの御言葉と、この先にある千年王国に感謝します。

イエスの御名によって。アーメン。

メッセージ by Amir Tsarfati / Behold Israel :http://beholdisrael.org/

ビホールドイスラエル 日本語 YouTube チャンネル
https://www.youtube.com/channel/UCLcuvC6Mr63AqwiiXDkwRVQ